

ツナガルカンケイ

 NPOインターンシップ
ツナがるカンケイ

2022 活動報告書



❖ P2-3 プログラム内容

❖ P4-5 受け入れ団体一覧

❖ P6-7 インターン生の活動風景

❖ P8-9 インターン生座談会

❖ P10 受け入れNPO・大学からの声

❖ P11 インターン生のアンケートより

NPOインターンシップとは？

横浜市を中心としたNPOの活動を体験出来るインターンシッププログラムです。活動先は「福祉」「国際協力」など、多様なNPOから選ぶことができます。NPOの想いと本気で向き合うインターンシップです！

具体的な流れ



Step
2

事前研修会

実際に活動するにあたって、インターンシップに必要な基礎知識を学ぶ研修会を実施。参加学生同士の交流も深まります。



Step
1

NPOと学生のお見合い会

参加学生と受け入れ団体が直接話すことができる機会です。様々な団体を見て、活動したい団体を選びます。



Step
3

志望先の調整&面接

志望団体が決まったら面接にてマッチング！活動期間や内容について具体的に打ち合わせます。

Step
4

活動体験

各団体に分かれ、活動を始めます。活動中には、他の団体へ行った学生同士の交流も開催。



Step
6

修了式・成果報告会

活動内容を振り返り、互いの成果を報告します。最後に修了書を受け取り、プログラムは終了です。

Step
5

定例会（※長期生のみ）

月に一度インターン活動でのお互いの悩み相談や目標確認を学生同士で共有する機会。異なる大学の学生との仲も深まります。



2022年度の報告

長期実践型

期間：3-6か月間(200～400時間)
時期：8-2月

短期体験型

期間：10日間(80時間)
時期：8-9月

参加者数

計75名

(長期：20名)

受入団体数

23団体

提携大学数

9大学

コロナ禍ではありましたが沢山の方のご協力のもと、
オンラインと対面を駆使し活動を継続することが出来ました！



NPOインターンシップ寄付・協賛のご報告

このNPOインターンシッププログラムは皆様のご賛同・
ご支援により成り立っています。皆様、誠にありがとうございました。

2021年度

寄付総額：¥239,953

ご支援いただいた方：

- ・ 2団体
- ・ 個人 19名様

2022年度

寄付総額 ¥169,058

ご支援いただいた方：

- ・ 1団体
- ・ 個人 19名様

2022年度 NPOインターンシップ受け入れ団体一覧



障害者自立生活センター
IL・NEXT
障害者自立支援



NPO法人みどり福祉ホーム
障害福祉、子ども支援



NPO法人地域生活センター
障害者福祉



認定NPO法人びーのびーの
子育て支援



NPO法人さくらザウルス
子育て支援



NPO法人グリーンママ
子育て支援



NPO法人
ピッピ・親子サポートネット
子育て支援、学齢期の居場所



認定NPO法人
スマイルオブキッズ
病気や障害のある
子どもと家族の支援



K2インターナショナル
グループ
まちづくり・若者支援



片倉うさぎ山公園
遊び場管理運営委員会
プレイパーク
(屋外の子どもの遊び場作り)



NPO法人教育支援協会南関東
子どもの体験学習支援



公益財団法人日本野鳥の会
「横浜自然観察の森」
環境保全(教育・調査・管理)



大倉山おへそ

商店会と連携したまちづくり



コトラボ合同会社
「ヨコハマホステルヴィレッジ」

コミュニティ再生、起業



NPO法人ぐらす・かわさき
「メサ・グランデ」

コミュニティカフェ
市民活動支援



NPO法人かながわ外国人すまい
サポートセンター

外国人支援
(すまい探し・生活相談など)



NPO法人WE21ジャパン

リサイクル
国際協力



NPO法人横浜市民アクト
「ほどがや市民活動センター」

市民活動支援、まちづくり



国際協力NGO Act for Child

国際協力



NPO法人横浜NGOネットワーク

国際協力



認定NPO法人アークシップ

音楽、まちづくり
多様化の推進



NPO法人アクションポート横浜

中間支援、まちづくり

2022年度 提携大学一覧

桜美林大学、神奈川大学、関東学院大学、専修大学、東海大学、
明治学院大学、横浜市立大学、横浜商科大学、横浜美術大学

2022年度 インターン生の活動風景

長期実践型インターン生の活動

個々に活動していた大倉山おへそインターン生の3人が初めて集合し、それまでの活動状況の共有やこれからの活動内容について意見交換を行いました。



【フォトコンテスト投票】新たに仮想現実空間を導入した仮装フォトコンテストを行いました。作成は試行錯誤でしたが、おへそや地域の方々に喜んでいただきやりがいを感じました。



8月

10月

11月

12月

2月

【ハロウィンイベント】

コロナの影響で1年ぶりの開催。おへそ内ではヘアアレンジ屋さんを開き、外のスペースでは射的、輪投げ、お菓子釣り、フォトコンテストを実施し、地域の方々に楽しんでいただきました



【梅まつり】コロナの影響で3年ぶりの開催。商店街のお店がお祭りに出店し、多くの人々が来訪。私は、商店街のケーキ屋とコラボしたクッキーと温かい飲み物の販売を担当しました。幅広い年代の方と触れ合うことができました。

短期体験型インターン生の活動



【バザーのお手伝い】

綾瀬市に向かい、エコものセンターバザーの手伝いを行いました。手伝いを行う中で施設の紹介などで、そこでボランティアをされている方とも話す機会がありました。

【企画実施】

インターン最終日にそれまでの活動の総まとめとしてインターン生で企画を実施しました。はじめて企画書から企画実施という一連の流れを職員の方や学生スタッフの方のサポートもありましたが、無事に終わることができました。インターン期間中、中々上手くいかないこともあったりしましたが、とにかく最終日に企画完成が間に合って本当に良かったです！



1日目

2日目

3日目



【金沢資源選別センター見学】

並びに周辺地域見学
横浜市金沢区にある資源選別センターの工場を見学させていただきました。ここではリサイクルという私たちが聴き慣れていて、実際に行っていることとはまた別の視点から学ばせていただいた貴重な一日でした。

1日の活動の流れ

- 8:45 集合、開館準備
- 9:00 施設開館 開館業務
企画についての打ち合わせやこれに向けた準備
- 12:00
|
お昼休憩
- 13:00
|
その後、午前中の作業の続きや施設運営で手が足りていない部分をサポートする
- 17:00
|
- 17:15 閉館 閉館作業
終了

大倉山おへそ
長期実践型インターン生



津田塾大学 3年
桑原春香さん

Q1. NPOインターンシップ参加理由

3年生となり新たなことにも挑戦したいと思っていたから。高校時代からNPOに関心があり、人のために役立つ活動をしたいという気持ちを持ち参加を決めた。

Q2. やりがいのあった活動は？

ハロウィンイベントの仮装フォトコンテストの企画・運営である。コンテスト応募写真を「VR空間」に貼り出し投票してもらうことを提案し、実行した。勉強会に参加しVR空間の作り方を学び、様々な人の意見を取り入れ作成した。初めてのことで大変だったが、おへそや地域の方々に喜んでいただいたのでやりがいを感じた。

Q3. インターンを経験して変化したことは？

相手の立場に立てるようになったこと。地域の方からのVR空間試作品体験の感想から、ママ世代や子どもたちを考慮していなかったことに気付かされた。できる限りの力で作成したのだから、良いものだという狭い視野でとらえていた。

Q4. インターンの魅力とは？

多様な人々と出会えることだ。大学やアルバイトでは出会えないような人と関わることができた。大倉山おへそには、小さな子をはじめ年配の方までいらっしゃるので幅広い年代の方と交流することができ、様々な価値観に触れることができる。

Q5. 団体の方へメッセージ

約半年間大変お世話になりました。大倉山おへそは、アットホームでどんなことにも挑戦を許すような環境でした。イベントの運営は初めてだったため大変なこともありましたが、沢山のことを学ぶことができ、大変充実しておりました。ありがとうございました。

Q6. これからインターンを始める方へのメッセージ

新しいことに挑戦したいと思う方は思うだけでなく声にしてみてください。色々な活動ができると思います。インターン先の方々はきっと受け入れてくれます。大学やアルバイトだけでは経験できないことに挑戦し、たくさん学んでください。

NPO法人横浜市民アクト
短期体験型インターン生



専修大学 3年
木村幸平さん

Q1. NPOインターンシップ参加理由

自分が将来、「何を思って働きたいのか?」、「どんな仕事自分が合っているのか?」というのがまだわからないというのが正直なところであり、そんな自分がこのインターンシップを通じて、何か一歩進むことができればよい経験となるのではないかと思います、今回参加してみようと思いました。

Q2. この団体を選んだ理由は？

学生への要望・要件の部分に、自ら積極的に考え、チャレンジしてみたい人や市民活動やまちづくりに関心のある人の応募を待っていると記載があり、自分がインターンシップを通じて何か具体的に自分から行動できるような心がけをしてみたいという思いがありましたのでこちらを希望させていただきました。

Q3. インターンを通じて得たことは？

市民活動やまちづくりに関心を持ち、仲間と協力することで得られる情報やそこでしか体験できない貴重な経験を今後に生かせる何か1つ得たいなど、活動前は感じており、以前よりも自分の身近な地域に関心を持つようになったと思います。また自分には何ができるのかという新しい気付きを発見できるような行動をしてみたいと思っています。

Q4. インターンの魅力とは？

NPOという普段は活動や仕組みを目にすることがないのでインターンシップを通じてそれらを体験するのが魅力であると感じました。

また、そこで実際にお会いする職員の方をはじめ、施設を利用する方々とも実際に交流ができたり企画に参加していただいたりなど大学生活では中々経験することのない事を学ばせていただくことも魅力の一つだと感じました。

Q5. 団体の方へメッセージ

アワーズセンター長北川さん並びに職員の方々の皆さん、インターン活動中は大変お世話になりました。活動中はインターン生含めて周りでフォローして下さった方々のおかげで10日間本当に充実した時間を過ごさせていただきました。改めて本当にありがとうございました。時間があればぜひまた挨拶しにいきたいと思っていますので、その際はよろしく願いいたします。

Q6. これからインターンを始める方へのメッセージ

就職活動に当たっては「自分が何をしたいのか」など人それぞれ考えが異なるのは当然だと思います。そんな中で、インターンシップという貴重な経験をすることで少しでも自分が将来的にこんなことに挑戦してみたい、この経験を生かして働いてみたいなど色々なことに気づかされる時間を過ごせると思います。ぜひこのインターンシップを通じて新しい発見をたくさんしてもらいたいと思っています。

2022年度 インターン生座談会

2023年3月、NPOインターンシッププログラムに参加した学生を交え、座談会をオンラインにて行いました。今回は、NPO法人アークシップで長期インターンをした笠木さん（神奈川大学3年）と、K2インターナショナルグループ（※以下 K2）で長期インターンをした藤島さん（専修大学1年）に参加していただきました。（メインインタビュアー：プロジェクトスタッフ 丸山）



藤島さん

笠木さん



丸山

丸山：早速一つ目の質問に入っていきます。まずお二人がインターン先を決めた理由をお話いただきたいなと思います。

笠木：まずNPOインターンシップに参加した理由としては、大学でNPOやソーシャルディフェンスについて学んでいて、神奈川大学の山岡先生の授業でNPOインターンシップを知ったのがきっかけでした。

授業などの座学で学んだことは抽象的なことだと思っていたので、まずは経験としてNPOインターンシップのような実践的なことに参加してみようと思い、参加を決めました。そして、私は団体先を選ぶ時に、実は最初、アークシップには行こうとは思っていませんでした。

丸山：そこから「アークシップにしよう」と思ったきっかけは何だったのですか？

笠木：最初アークシップに行こうと思わなかった理由は音楽でNPOを理解することができなかったのが理由でした。でも説明会でのお話で自分が動いて何かをするということ考えた時にアークシップが一番できるのではないかと思います。それが理由でアークシップにしよう決めました。

藤島：私は一年生ではあるのですが、1年間浪人をしていて、1年間大学生ではない期間を過ごしてしまったからこそ、何もしない1年は嫌だと思い専修大学のHPでNPOインターンシップを知り、「どうせやるなら長期でやってみよう」というのが、NPOインターンシップに参加した理由です。K2を選んだ理由は矢祭のイベントに単純に興味があったのですが、子供や若者に関われることが私の中で「いいな」と思い、個人的にも子供と接するのは好きだったのでやってみようと思ったからです。

笠木：ちなみに長期ではなく短期でも子どもと関わる

8 ことができたのではないですか？

藤島：短期でも関わられたと思いますが、矢祭にも興味があったということも長期を選んだ理由の一つだったと思います。

丸山：次にこの半年間のインターンシップで印象に残ったことがあればぜひ教えてください。

笠木：印象に残っていることは一つではないのですが、一言でいうと「ホッチポッチ愛」だと思います。ホッチポッチに関わっている人はアークシップのメンバーだけでなくイベントに関わってくれる出演者さんにも毎年出てくれる方もいらっしやって、そこで「ホッチポッチ愛」を感じました。

自分はイベントを企画段階、企画の根本から関わるといった経験を今回初めて経験して、アークシップのメンバーが家庭や仕事がある中で、一つのイベントを作るために試行錯誤しながら作り上げ、インターン生に指導して下さったことが印象に残りました。

インターン生を受け入れてくれる気持ちやイベントにかける思い・熱意からホッチポッチ愛を感じました。

丸山：多種多様な人と0から企画を作ることは学生にとってなかなかできない経験で、活動期間が短いこともあって大変だったと思いますが、逆にその大変さが印象に残ったことに繋がっているのだと今のお話を聞いて感じました。

藤島：私は主に「ポニヨ」、「いろは塾」という施設で活動していました。そこには研修生という色々な事情で生活リズムや気持ちの整理などを行っている方がいて、何人か研修生と仲良くなって話をしました。話をしていると心の病を抱えているようには感じられなく、この施設で変わることができたのだと印象に残りました。人は環境が変わることで良くも悪くも変わることができるのだということを実感しました。

丸山：ありがとうございます。研修生の方と繋がること
ができた、仲良くなれたのはすごいなとお話を聞いて
て思いました。

続いてはインターン活動を通じて学んだことや得たこと
についてお話いただきたいです。

笠木：アークシップではSNSやウェブの更新をしていて、
見る人にとっていかにみやすいか、いかに情報が得やす
いかを意識する癖をつけていました。なのでインターン
活動を通して身につけられたことは、より客観的にも
のをみて行動する意識を身につけられたと思います。

丸山：ありがとうございます。報告会でアークシップの
長谷川さんが話していた「一歩考えられる大人になろ
う」ということがちゃんと実践できていたのだと思い、
すごいなと感じました。

藤島：K2は子どもや若者など多くの方を支援しているの
で、人との繋がりを強く感じることができたと思
い、人とコミュニケーションをとることや人と会うこと、人
と繋がることを怖がっちゃいけないなと思
いました。また自分も新しい環境や新しい人に
出会えていいな
と思
いました。

丸山：ありがとうございます。今のお話を聞いて、自分
も共感できる部分があるなと思っていて、藤島さんがこ
のインターンで得るものがあるってとても嬉しいです。ぜ
ひ今後も積極的に挑戦してってください。

丸山：最後にインターン活動を終えて、今までの経験を
どう活かしていきたいかなどプランがあれば教えていた
いただきたいです。

笠木：自分の場合は経験を活かす場が2つありま
す。アークシップがその一つで、私は事務局バイ
トとしてアークシップに残ることになったので、
事務局という立場としてインターン活動で広が
った人脈を生かして今まで以上にたくさんの人と関
わり、「ごちゃ混ぜ」をさらに進めていきたい
と
思っています。またアークシップ以外の場の話で
は、プレゼンやイベントの司会といった自分が発
表するような機会にインターンで身につけた物事
を客観的にみて考えるというスキルを今後社会人
になったとしても生かしていきたいと思ってい
ます。

藤島：私は新しい環境で新しい人と出会うことは
楽しいことで、どんどん繋がっていきたくてイン
ターンを通して実感できたことが自分自身大きな
学びだと思
っていて、自分は興味あるけど友達が行
かないから行かないというようなことが今まで
あったので、今後、自分が興味あることは積極
的に挑戦していこうと
考えています。

丸山：ありがとうございます。ぜひお二人とも頑
張ってください。今年はインターン活動を対面が
多めで活動できていて、打ち上げなどインターン
生同士の横のつながりができていてよかったな
と思っています。お二人ともお疲れ様でした。これ
で座談会は終了したいと思います。ありがとうご
ざいました。



あなたにとって、NPOインターンシップとは？



「自分をみつめ直す」

K2で研修している人と関わったことで悩み
を克服するのは大変であっても、人は乗り
越える力があると感じました。同時に私も
苦手なものに対してどう対策するか、自分
に対して考える機会が増えました。
大学1年生で自分を見つめ直せる経験がで
き、これからの大学生活に活かしていきたい
と思います。

K2 長期インターン生
専修大学1年 藤島 美聡 さん



「新しい出会いの場」

このインターンを通して、多様な人に出会
うことができました。アークシップのメン
バー、自主事業・ホッチポッチミュージ
ックフェスティバルに出でくださる出演者さ
ま、他大学の長期インターン生、などと
。私は広報活動をメインで行っており、外部
への発信の仕方やスケジュール調整など
うまくいかないことがありました。そんな中
たくさんの方に助けていただいたおかげで、
インターンをやり切ることが出来たと感じ
ています。

アークシップ 長期インターン生
神奈川大学3年 笠木 美桜さん

受け入れNPO・大学からの声

インクルーシブという言葉をご存知でしょうか？
障害福祉の分野で障害がある人もない人も同じ空間で違いを認め合いつつ共に生きることを意味しています。あなたの友達にクラスの仲間に、暮らしている街に障害がある人はいますか？
大半の人が「NO」と答えると思います。
同じ社会に暮らしながら私たちは何故出会えないのでしょうか。
そんなことをあなたたちと一緒に考えたくてインターンシップを始めて13年ほどになるでしょうか。たくさんのインターン生たちが私達と語り合い共に同じミッションに取り組む中で、障害があってもなくてもみんな同じなんだということを感じ取ってくれました。
さあ、一歩を踏み出してみてください。

障害者自立生活センター
IL・NEXT
渋谷治巳 様

明治学院大学
根本淳子 様

本学心理部教育発達学科では、「多文化社会教育実習」科目の中でNPOインターンシップ活動に参加させていただいています。学校教育を中心とした「学びづくり」を学ぶ学生らにとって、本インターンシップは、社会とつながり、そして、自身の役割を自身で見つけてコミュニティに参画する貴重な機会となっています。
現代は変化の激しい社会ですので、常にその変化を楽しみ、新しい活動を生み出し、そして、周囲と繋がって成長し続けていく力は、子どもから大人まで必須だと感じています。多様な人々が出会いそして学び合うこのインターンシップは、生きる力を育てる場とも言えるかもしれません。横浜アクションポートのサポートと受け入れていただく各団体様のご協力によって、学生達はとても充実した時間を過ごさせていただいています。

当団体は、不登校・ひきこもり・発達障がいなど、困難を抱える若者達の自立をサポートし、生活・就労のための環境作りを行っています。関連団体・行政や福祉サービス等と連携しながら、民間にしかない力とその環境によって支援を行っています。その為、多種多様な事業所があり、そのネットワークや当団体の理念を知り、理解するだけでも大変だったかと思えます。
学生の皆さんには、それぞれ、学童、中高生の学習支援、広報、イベント、福祉事業所等で活躍していただきました。実際に現場での活動を体験していただく貴重な機会になったかと思えますので、今後に生かしていただければ幸いです。私共にとっても、貴重な機会をいただき感謝しています。

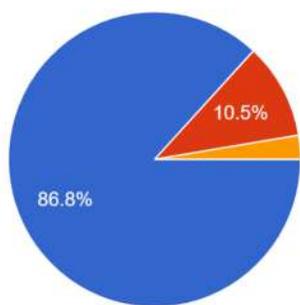
K2インターナショナル
グループ
亀山友理子 様

関東学院大学
道幸俊也 様

参加した各学生が自分なりの目標や考えをもって参加していたように思います。連絡などが上手くいかなかったケースもあったようですが、社会ではNGとされる指示待ち人間にならないためにも、決して受け身にならず社会人になるためのマナーをもって積極的なコミュニケーションを取っていただきたいと思います。参加した学生の皆さんには自分の特徴（強みや課題など）を活動を通して、体感しながら自己理解の機会にも繋げてもらえればと思います。
また、自分はなぜその活動に参加しようと思ったのか、目的意識も明確にできると良いように思います。これから参加する学生さんには是非とも頑張っていたきたいと思います。

2022年度インターン生のアンケートより

参加者の満足度アンケート



- 満足
- どちらかと言えば満足
- どちらかと言えない
- どちらかと言えば不満
- 不満

- ・ インターンを通して子育て世代の方々や施設についての理解を深めることができたから。
- ・ 一般募集されていないので、普通なら経験できないNPOでのインターンシップを体験できたから。
- ・ 企画の実施など貴重な経験をさせていただけたから。
- ・ インターンシップに参加しなければ経験することのできなかつた体験をすることができ、多くのことを学ぶことができたから。
- ・ 興味のある分野について自分のやりたい事を実践できたから。

感想ランキング(複数回答可)

- 1位 いままでやったことがない経験ができた (89.5%)
- 2位 人の役に立つ経験ができた、大学生活 (特に夏休み) を有意義に過ごすことができた (同率42.1%)
- 3位 NPOや民間非営利組織への関心が高まった、地域活性化やまちづくりへの心が高まった (同率39.5%)

●10日間というとても短い期間でしたが、自分の中では全力で挑むことができ満足のいく活動だったと思います。また、今回は長期のインターンで参加することは出来なかったのですが、長期とはまた違う感じ方や体験をすることができて良かったとも思っています。ありがとうございました。

●インターンシップに参加したことで、新たに知ることが多くあり、このように近くで見ることができて良かったと感じた場面がとても多かったです。ありがとうございました。

●以前はそもそもNPOという団体がどのような役割でどのような活動をおこなっているのかさえもわからなかったけれど、インターンシップ後は活動を通してその役割や子どもたちに対してどのような思いを持って接しているのかなどを知ることができました。

●以前は、どのような活動を行っているのかあまり理解していなかったが、インターンシップ後は、NPOは自主的に活動し、地域の人々の事を考え、地域の中で重要な役割を果たしているのだと理解した。

●以前は、NPOが地域に対してどのような立ち位置で、どのような活動をしているのかについての理解があまり出来ていなかった。しかし、インターンシップ後は、地域のニーズを解決する、地域との関わりを自発的に生み出そうとしている活動をしているという印象にか変わった。



発行月 2023年3月
発行元 NPO法人アクションポート横浜
編集 高城芳之 細野瑞希 小川楓人 丸山穂乃実 中西萌
URL <http://actionport-yokohama.org>



アクションポート横浜 検索